

北九州市 児童福祉施設等 第三者評価結果票

1 施設・事業所の概要

- | | |
|---------------|---------------------|
| (1) 事業者名(法人名) | 社会福祉法人 瑞穂会 |
| (2) 事業所名 | みずほ野保育園 |
| (3) 所在地 | 北九州市小倉南区津田一丁目13番10号 |
| (4) 電話番号 | 093-474-0888 |

2 評価実施日

平成18年 9月28日

3 評価実施者

北九州市(北九州市児童福祉施設等第三者評価委員会)

4 評価結果

総合評価

保育園は、幹線道路沿いながらも三方を田畑に囲まれ、高い利便性と自然や四季の移り変わりが感じられる良好な環境の中にあります。開設4年目の新しい園舎には地域交流スペースやランチルーム等が整備され、採光にも工夫が見られ、園児が安全で快適な生活ができる配慮がなされています。また社会のニーズに応え一時保育や障害児保育等、様々な保育に取り組んでいます。

子どもの発達援助

園独自の保育計画はありますが、0歳児の個別指導計画がないため今後の立案が期待されます。保育の記録では帳票が整備されていますが、今後は全職員に周知されることが望めます。気になる子どもについて協議されていますが、職員会議記録とは別にファイルされることが望めます。

健康対策として乳児には毎朝検温・体調確認をし、連絡帳に記入されています。健康診断の際には保護者の事前提出質問に対し嘱託医自身が詳細を記入する等連携がとれており、高く評価されます。感染症の疑いに気づいた時には事務室のベッドで対応するなど他の子どもへの配慮がなされています。給食では調理員が喫食状況や偏食について把握していますが、サンプルケースが小さいので、別のケースに入れる等して展示することが望めます。

新しい園舎には交流スペースやランチルームが整備され、採光にも工夫が見られます。トイレにエアータオルやペーパータオルが設置され、食事前には手洗い確認後、アルコール消毒を行うなど配慮がなされています。園の周辺は自然に恵まれています。園内で子どもが小動物とふれあえる環境づくりや、菜園活動等で命の大切さを知らせる保育の工夫が望めます。

保育の中で一人一人に丁寧でわかりやすい言葉を使うなどの配慮がなされています。縦割り保育による製作活動の中で、異年齢児相互の思いやりの心や製作意欲を育てており評価できます。大きいクラスの子が小さな子どもと一緒に遊び、自然な形で交流が行われています。絵本の読み聞かせが0歳児から行われており、日常生活の中で当番活動が行われています。子どもの前で他人を批判しないなど人権について保育士が子どもに配慮しています。

延長保育では子どもが安心して保護者の迎えを待てる雰囲気づくりに配慮が見られます。障害児保育については関係機関と連携し個別の支援計画が作成されています。園舎や駐車場にもバリアフリーの配慮がなされています。

子育て支援

保護者とは入園式や保育参観後等に懇談会を行っていますが、今後は全保護者対象の個別懇談会の実施が望めます。虐待対応に関するマニュアルが常備され、子ども総合センター等の関係機関と連携が取れる体制が組まれています。一時保育の子ども達も通常、一緒にクラスに入り、同じ保育がなされています。

地域の住民や関係機関等との連携

地域での役割として保健所、保育課等からの情報を保護者に配付しています。地域の祭りや市民センターの行事で交流がなされ、近隣の伝統行事に参加・継承しています。近隣保育園と一緒に人形劇を鑑賞する等の交流については、今後も定期的な実施が期待されます。地域へのボランティア活動は行っていないため今後の実施が望めます。

運営管理

保育理念・基本方針は明文化されています。保育理念などの見直しの際には記録を残すことが望めます。研修の内容は多岐にわたり、個人的に偏りのないよう参加者を決めています。年間計画の立案が期待されます。守秘義務の遵守については問題事例への原因分析や対策立案が未実施のため、今後は期待されます。安全管理チェックリスト等や不審者や事故・災害・食中毒などの危機管理マニュアルが整備されています。3～5歳児は食後のブラッシングを行い使用後の殺菌も行っています。

評価対象ごとの評価（概要）

子どもの発達援助

一人一人の子どもの状況に配慮した保育が展開されているか、保育にふさわしい環境が整っているかなどを評価したものです。

評価対象	評価結果
発達援助の基本	<p>計画・記録 子どもの年齢や発達状態に応じた園独自の保育計画が作成されていますが、0歳児は個別の指導計画がないため、今後の立案が期待されます。保育の記録については独自の帳票も整備されていますが、今後は全職員に周知されることが望まれます。</p> <p>会議 ケース会議は開催されていますが、今後は、定期的にまた必要に応じて開催され、職員会議記録とは別にファイルされることが望まれます。</p>
健康管理・食事	<p>健康管理 健康対策として日頃から嘱託医との連携がとれており、乳児には毎朝検温が行われ、体調の確認を行い、連絡帳に記入されています。健康診断の際には、保護者が事前提出した質問に対し嘱託医自身が詳細を記入する等連携がとれており、高く評価されます。</p> <p>感染症 感染症の疑いに気づいた時には事務室のベッドで対応するなど他の子どもへの配慮がなされています。また感染症の流行時には嘱託医と連携をとり、関係機関からのチラシを配布したり、掲示板や各クラスのホワイトボードで保護者に予防対策などの情報提供が行われています。</p> <p>食事 給食では、調理員が子どもの表情や声を聞き、喫食状況や偏食の把握ができています。サンプルケースが小さいので、別のケースに入れる等して展示することが望まれます。3歳以上児はランチルームで食事できるようにスペースが整備され、テーブルの上には季節の草花や木の実が飾られ、食事を楽しむ配慮がなされています。未満児は少人数で、時間をずらせて食事をするなど、子ども一人一人に配慮し、家庭的な雰囲気の中で食事をしています。</p>
保育環境・保育内容	<p>保育環境 開園4年目の新しい園舎で交流スペースやランチルームが整備され、採光にも工夫が見られます。各クラス等に畳やじゅうたん、玩具コーナーが工夫され、くつろいだり、落ち着いて過ごせる安全な空間が確保されています。トイレにはエアータオルやペーパータオルが設置され、食事の前には手洗い確認後、アルコール消毒を行うなど配慮がなされています。園周辺の環境は自然に恵まれています。園内で子どもが小動物とふれあうことができる環境づくりや、菜園活動を通して、日々の成長を喜び、命の大切さを知らせる保育の工夫が望まれます。また身近な生活問題や地域の特色を生かした保育への取り組みが期待されます。</p> <p>保育内容 子ども一人一人に丁寧な言葉かけや、聞こうとする姿が見られ、子どもの目線で、わかりやすい言葉づかいで対応するなどの配慮がなされています。縦割り保育による製作活動の中で、異年齢児相互の思いやりの心や製作意欲を育てていることは評価できます。大きいクラスの子が小さな子どもと一緒に遊び、世話をすることで自然な形で交流が行われています。絵本の読み聞かせが0歳児から行われており、日常生活の中で当番活動が取り入れられています。</p> <p>人権 子どもの前で他人を批判したり、人間性を否定しないことや、保育士がしっかりと子どもの目を見て話し、理解できるような言葉で伝えるなど人権に配慮した保育に取り組んでいます。</p> <p>延長保育・障害児保育 延長保育では異年齢の子ども同士が楽しんで自由遊びをしながら安心して保護者の迎えを待てるような室内の雰囲気づくりに配慮が見られます。障害児保育については子ども総合センター・療育センター等の関係機関と連携し、助言・指導を受け、個別の支援計画が作成されています。園舎や駐車場、階段の段差にもバリアフリーの配慮がなされています。</p>

子育て支援

子育てに関する保育所と保護者との相互理解や、地域における子育て支援の取り組みなどを評価したものです。

評価対象	評価結果
者の育 入所児童の保護 支援	<p>保護者との関係・虐待 保護者とは入園式および保育参観の後、クラス別に懇談会が開かれ、さらに希望者についてのみ個別懇談を行っています。全保護者対象の個別懇談会は予定されていないため今後の実施が望まれます。虐待対応に関するマニュアルが常備され、子ども総合センターなど市の関係機関と連携が取れる体制が組まれています。</p>
て支援 地域の子育	<p>一時保育 一時保育では160名を超える月があるなどかなり利用されています。一時保育の子どもたちもほとんどの場合、一緒にクラスに入り、同じ保育活動をしています。知的障害を持つ子どもも一時保育を利用しており、その記録がとられ対応が検討されています。</p>

地域住民や関係機関等との連携

地域の最も身近な児童福祉施設としての役割を果たしているか、関係機関等との連携を図っているかなどを評価したものです。

関・団体との連携 地域の住民や関係機	<p>地域での役割・その他機関との連携 保健所、保育課などの情報を入手し、全てを保護者に配付しています。地域の祭りや市民センターの行事で交流を図っています。毎年7月には近隣の八幡宮の子ども相撲に参加し、伝統行事の継承を担っています。小学校との連携では教諭の来園や保育参観はなく、働きかけが望まれます。近隣保育園の園児と一緒に人形劇を鑑賞する交流を予定していますが、今後も定期的な交流が期待されます。地域との関わりでは七夕祭りに老人ホーム入所者を招待し交流を図っていますが、地域へのボランティア活動は行っていないため今後の実施が期待されます。</p>
ンティア 実習・ボラ	<p>実習等の受入 実習等の受入では、目的・方針・注意事項がオリエンテーションで周知され、反省会・カンファレンスには園長・担当・実習生などが参加するようになっています。</p>

運営管理

保育に関する基本方針等が策定されているか、職員研修などの取り組みがなされているかなど、組織としての運営管理を評価したものです。

組織運営 基本方針	<p>理念・方針 保育理念・基本方針は文章化され、職員へは採用時等で、保護者へは入所時に周知されていますが、地域住民へは周知されていません。保育理念などの見直しの際には記録を残すことが望まれます。</p> <p>保育の質の向上・研修 月1回園内研修を開き、職員から意見を集約しています。保育の課題として昨年度、今年度は主として「遊び」を採り上げ、保育の質の向上を図っています。研修では個人的に偏りのないよう参加者を決めており、研修内容は、乳児保育、わらべ歌研修、相談員研修、給食献立伝達研修など多岐にわたりますが、年間計画がないため、立案が期待されます。</p>
安全・衛生管理 情報提供 守秘義務の遵守	<p>守秘義務・情報・安全 守秘義務の遵守については就業規則に明文化されていますが、問題事例への原因分析や対策立案がまだ行われていないため、今後が期待されます。事故防止に関する安全管理チェックリスト等や不審者の侵入・事故や災害・食中毒などの危機管理マニュアルが整備されています。3～5歳児は食後のブラッシングをしており使用後の殺菌も行っています。</p>